弁天さま

岩かげに　したたり落つる山の水
大河となりて　野を流れゆく

今上陛下御製

深い山の岩かげにしたたり落ちる数滴の水が、細い流れを生み、やがて川をなして渓谷を下り、豊かな大河となって緑の田畑の平野を潤し、様々な生命を育んでゆく。我が国もこの大河と同様に悠久の生命をもって続いています。険しい谷や豊かな平原や様々な場面を乗り越えて今に至ります。

祭事の御案内

各種祈祷承り中

個人・会社の各種祈祷は常時承っております。また、地鎮祭・上棟祭・竣工祭・神棚祓・安全祈願祭などの出張祭典も可能です。お申し込みは社務所まで。

どんど焼き（古神札焼納祭）

一月十五日（月）午前八時～正午まで

一年間お守りいただいたことを神さまに感謝し、神社に返納しましょう。

一月七日より社務所前にて事前受付を行います。当日お越しいただけない場合は一月七～十四日午前九時から午後五時までの間にお持ちください。

※神棚・表札・財布・だるま等は別途お祓いをいたしますので社務所にお持ちください。初穂料五千～一万円より

二月三日（土）大安 節分祭（午前十一時斎行）

節分は厄祓いの日（厄祓・年祝・方災除）

受付：午前七時～午後七時まで

旧正月にあたる二月三日の節分祭は今年一年の**厄を祓う日**でもあります。

厳島神社の相殿に坐す秋葉大神は厄除けに、猿田彦大神は方災除けの御神徳がある神さまです。

還暦・古稀・喜寿などの**年祝い**、九星術で悪い方位にあたる**八方ふさがり・病門・鬼門・困難宮**の方災除けの祈願も承ります。

※家族祓い、代理祈祷も承ります

※二月三日以外でも一年中お祓いをお受けいただけます

遠方にお住まいの御家族の方へ
厄除け・方災除けの御札・御守セット頒布中
初穂料　三千円

年男・年女を募集

二月三日の節分祭では、釧路住民の除災招福を祈願すべく、拝殿前での節分祭斎行とともに、舞台上から年男・年女が「鬼はそと、福はうち」の掛け声とともに福豆や餅を撒きます。（午前十一時より）

事前に総代さんと一緒に餅・豆まきを行っていただける辰年生まれの年男・年女を募集します。

御希望の方は社務所までお問合せください。（授与品あり）

方角からくる災いとは？

九星は、生まれた年により、一白水星・二黒土星・三碧木星・四緑木星・五黄土星・六白金星・七赤金星・八白土星・九紫火星という九つの星を以てその人の運勢や吉方位などを導き出す古法です。また「陰陽五行説」という森羅万象を木・火・土・金・水の五つ働きに分けるる考えが合わさり、すべての現象を判断する九星気学となりました。

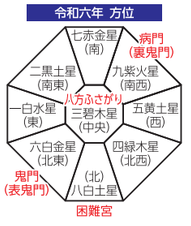
八方ふさがりは本命星が中央に位置し、八方をふさがれ何事もうまくいかない災いの年です。

病門は南西の方角で、この方位に入ると病気やケガなど身体の健康に支障をきたしやすいため注意が必要です。

鬼門は北東の方角で「鬼（邪気）が出入りする方角」を意味しており、何事にも変化・変動が多く運気も衰えがちになります。

困難宮は北の方角で、最も運気が停滞する方位とされ、特に仕事・健康面において困難に見舞われる年です。

すべての人が九年に一度巡る星回りのため、御自身の生まれ星がこれらの方位に入った場合はそれぞれ**八方・病門・鬼門・困難宮除けの御祈願**をお受けいただくことをお勧めします。



住居・会社・事務所などの鬼門と裏鬼門の方角にお祀りいただくことで邪気を祓い、清浄を保つ「鬼門しめ縄」は社頭にて頒布をしております。

■初穂料　二千円

●一年中お祀りいただけます

三月三日（日）人形供養祭

毎年桃の節句に「**人形供養祭**」を斎行しております。御自宅で眠っている雛人形・五月人形・日本人形・ぬいぐるみ等がございましたらお持ちください。

日時■三月三日（日）

持込期間■二月四日～二月二十九日

初穂料■五千円～一万円（持込量による）

※道具一式込み七千円～一万円。雛人形・五月人形の両方を持込の場合それぞれ初穂料をお納めください。

六月一日（土）写真焼納祭

写真の日である六月一日に「**写真焼納祭**」を斎行し、思いのある写真を祓い清めます。

日時■六月一日（土）

持込期間■五月一日～五月三十一日

初穂料■五千円～一万円（持込量による）

※遺影は一万円より別途祈願

九月九日（月）重陽の節句

道指定有形文化財 円空仏公開日

五節句のひとつ重陽の節句に「**病気平癒・健康祈願祭**」を執り行います。その際、当神社の御神宝である「**円空仏**」を一日限り限定公開いたします。

祈願祭に御参列の方には神職より直接仏像の説明をし、間近で御拝観いただけます。

日時■九月九日（月）

初穂料■五千円・七千円・一万円

新年の御挨拶

厳島神社　宮司
菊池 吉郎

さて昨年を振り返りますと、長きにわたり世界を混乱させてきたコロナ禍がようやく落ち着き、春頃よりコロナ規制の大幅な緩和がなされてからは以前のような日常が過ごせるようになった、大きな変化の年であります。

ご存じのように日本は現存する世界最古の国です。天皇を戴いた国家として二千六百年超の長い間絶えることなく皇位が受け継がれてきた我が国には、神代の時代からときには集落、部族間の対立があり、宗教的な対立もありながらも、国家の中で大きく神道としてまとまり、後に大陸から伝わった仏教や儒教などをうまく融合させながら、様々な異なる価値観を共存させて成り立ってきたという歴史があります。「和」を尊んできた私たちには異質を共存させるということにさほど違和感がありませんが、その柔軟な感覚に海外の方々は興味を持ち、その深さに触れようと旅をされております。

本年の干支は甲辰（きのえたつ）です。甲は「一番」、「はじめ」といった意味があり、辰は「変化」、「進化」の意味があるそうで、本年は何かをはじめるのにうってつけの年であります。コロナ禍も終焉を迎えつつある今、改めて神代より続く日本という国の深淵を知るべく、各地の神社参詣に出られるのはよろしいのではないでしょうか。その際にはまず神様にご報告申し上げ、旅路が安全に行えるようお祈りすることも大切かと存じます。

最後になりますが、コロナ禍明けで益々活発的になるであろう本年、皆様の日々の活動をお守りくださる氏神様の御神徳を高められ、また皆様に気持ちよく御参拝いただけますよう、神明奉仕に確りと励んでまいります。本年一年もまた、どうぞ宜しくお願いいたします。

厳島神社　宮司　**菊池吉郎**

令和六年
皇紀二千六百八十四年

【祭事暦】

一月一日　元旦祭
一月十五日　どんど焼き
二月三日　節分祭（厄除祭）
二月十一日　紀元祭
二月十七日　祈年祭
三月三日　人形供養祭
三～四月　入学祭
五月十六・十七日　春季例大祭
六月一日　写真焼納祭
六月三十日　夏越の大祓
七月十二～十四日　夏季例大祭
八月七日　七夕水まつり
九月九日　重陽の節句（健康祈願祭）
九～十一月　七五三詣
十月十六・十七日　秋季例大祭
十一月二十三日　新嘗祭
十二月三十一日　大祓式・除夜祭

皇紀二千六百八十四年、令和六年の新春を迎えるにあたり、謹んで御皇室の御繁栄と日本国の発展、ならびに氏子崇敬者の皆様の益々の弥栄を御祈念いたします。

■初穂料　二千円

●一年中お祀りいただけます

発行元／釧路國一之宮　厳島神社
〒085-0842
釧路市米町1丁目3番18号
電　話(0154)41-4485
ＦＡＸ(0154)43-2974
厳島神社ホームページ
http://kushiro-itsukushimajinja.com

厳島神社総代一覧（敬称略）

【総代長】
中島　太郎

【副総代長】
濱谷　美津夫
金井　関一

【総　代】
石田　博司　　栗林　定正
登坂　康弘　　村井　順一
小野寺　英夫　　宮田　昌利
平澤　利秀　　浅野　一弘
高橋　貢　　菊地　靖
和田　優

（総代任命順）

総代より挨拶

厳島神社総代
金井　関一 様

あけましておめでとうございます。皆様には、穏やかに新春を迎えられたことと、お慶び申し上げます。厳島神社氏子総代として、旧年中はひとかたならぬご厚情をいただきありがとうございました。本年も変わらぬお引き立てをよろしくお願い申し上げます。皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます。

当神社は漁場請負人佐野孫右衛門が漁場の安全と大漁祈願のため、安芸の厳島神社の御分霊を勧請奉祀したのが起源と伝えられています。文化二（一八〇五）年に、二代目孫右衛門が旧真砂町高台の地に神殿を造営しました。以来累年豊漁が続き、遂に神社を中心として一部落を形成するに至り、住民自ら産土神と崇仰するようになりました。

昭和天皇は昭和十一年九月二十八日の釧路市行幸の際、釧路國社である当社を御親拝されました。釧路市はご滞在中の御料品として鮪を上納し、御料鮪の漁獲は釧路発動機漁船組合が奉仕し、奉納までの鮪調理・保管を釧路魚卸売市場が奉仕したとあり、錦町市場にて、御料鮪御蔵置所清祓式が当時の菊池安三宮司のもとでなされています。

毎年年初めの一月五日に釧路魚市場の初セリ式の神事は歴代、厳島神社の宮司のもとで、大漁と航海の安全を祈願して厳粛にとり行われています。極寒の中で、これで新たな年の仕事が始まるのだと一同に会するみな気持ちがピリッと引き締まり、年の初めにふさわしい儀式であります。

副港市場・新富士市場でとり行われているこの初セリ式は、かつて魚河岸錦町にて行われていました。さらにその前は、神社から下った先の入舟町に魚市場がありました。

当神社は、年間さまざまな祭典・神事を通して祈念・祈祷・お祓いを行っています。皆様におかれましては、ご参加の程よろしくお願い申し上げます。

今年も厳島神社の大神様のご加護をいただきながら少しでも皆様に穏やかな年となりますようご祈念申し上げます。

夏季例大祭

七月七・八・九日の三日間にかけ、厳島神社夏季例大祭を無事執り行いました。

神輿渡御行列

コロナ禍が明けたことによりお祭りの醍醐味である神輿渡御を本来の形で行うことができ、威勢の良い担ぎ手の掛け声とともに、神輿が市内を練り歩く姿を多くの方にご覧いただけたことと思います。当日は二十五度を超える夏日の中、沿道よりお参りをいただきありがとうございました。

また子ども神輿行列やお稚児さんも復活し、老若男女幅広い世代の皆様に参加いただけたお祭りとなりました。

北大通のパレードでは和太鼓演奏やよさこい演舞、本神輿・女神輿渡御、福餅まきを行い、釧路のメインストリートである北大通が大いに盛り上がりました。

縁日・境内イベント・大抽選会

飲食の露店が四年振りの出店となり、打上花火も上がるなど日中から夜まで終始賑わう境内でした。暑さも相まって美味しそうに喉を潤す様子から夏祭りの醍醐味を感じました。また子ども縁日ではお小遣いを握りしめ何周も並ぶ子どもたちの姿がありました。

蝦夷太鼓・日本舞踊・よさこい・纏振り・梯子乗りという日本古来の伝統芸能に加え、ひとり芝居・プロ歌手の歌唱ライブ・ダンスと、新旧の芸能が入り混じり幅広い世代にお楽しみいただけたイベントとなりました。

豪華景品が当たる大抽選会には境内を埋め尽くすほどの人出で、ステージ上から見渡すその景色は圧巻の一言でした。皆様がどれほど氏神さまの夏のお祭りを心待ちにされていたのかを感じられ胸が熱くなる思いでした。

奉納赤ちゃん泣き相撲

壱之宮祭（後日祭）の恒例行事となりました赤ちゃん力士の泣き相撲。元気な泣き声をあげる赤ちゃんもいれば、突然笑いだす赤ちゃんもいたりと、十人十色の表情やリアクションで会場全体が温かな雰囲気に包まれました。

例大祭フォトコンテスト

フォトコンテストには二〇〇件を超える応募をいただきました。どの写真からも参加者それぞれがお祭りを楽しむ様子が伝わる中、北大通を悠然と歩く神輿子ども行列の写真を最優秀作品に選出いたしました。

最優秀賞作品

新総代紹介

サンエス電気通信株式会社
代表取締役　宮田　昌利

釧路一之宮である厳島神社の総代に加えていただき、大変光栄に存じます。厳島神社と地域のために、精一杯がんばりたいと思います。

医療法人社団　あさひ会　あさの皮フ科クリニック
院長　浅野　一弘

釧路の守り神・厳島神社の総代に加えていただきありがとうございます。ご縁に感謝し、厳島神社・地域の為に尽力してまいります。宜しくお願い致します。

総代会研修旅行報告

去る令和五年十月十九日より二十二日の間、島根、広島、岡山の各神社を参詣する総代会研修旅行を総勢二十四名で実施いたしました。

昨年のコロナ規制緩和を受けての実施となり、島根県は美保神社、八重垣神社、出雲大社、日御碕神社と出雲神話の御社をまわり、その後広島県では安芸の宮島厳島神社を参詣、岡山県では桃太郎の伝説で有名な吉備津神社、吉備津彦神社を参拝して周りました。各地の歴史ある御社を現地の神職の皆様にご案内いただき、その地に伝わる舞楽や流鏑馬などを見ることが出来、大変学びある研修旅行となりました。

″もっこ″レース～めざせ！海の幸人（さちびと）～

かつて漁業者が魚やコンブを運搬するのに使った木製の入れ物「もっこ」を背負って参道を駆け上がる奉納行事「もっこレース～めざせ！海の幸人（さちびと）～」が十月九日に四年振りに開催され、小学生から六十代の二十九人が百メートルの神社の坂道を力走しました。同レースは、漁業のマチであるくしろ地域を盛り上げるための新たな行事として平成三十年に始めましたが、コロナ禍で令和二年から休止していました。この日は、三部門に分かれた選手たちが、コンブと砂袋を入れた重さ五キロ～十四キロのもっこを背負って力走。全員が無事に社殿にゴールし、コンブを奉納しました。小学生の部から成人の部までの三部門の優勝者は神社から「海の幸人（さちびと）」の称号が与えられ、神主が一年間、毎月神事で開運を祈願します。

御朱印・御朱印帳

令和五年度は釧路湿原をモチーフにした切り絵御朱印、半透明のクリア御朱印を頒布し、観光客をはじめ御朱印収集家の皆様にも大変好評をいただきました。

釧路湿原
切り絵御朱印

クリア御朱印
※体数限定、
なくなり次第終了

令和六年度は新たに煌びやかな宝船御朱印や新しいデザインの御朱印帳をお分かちいたします。また昨年に引き続き「一粒万倍日」限定御朱印の頒布もございます。

新御朱印帳

宝船特別御朱印
（デザイン画）

一粒万倍日御朱印

御朱印は参拝の証であり、氏神さまとの御神縁の証です。当神社では参拝した日の思い出となりますよう月毎に変わる季節の絵柄をお描き入れしております。新しい年を機に御朱印巡りを始められてはいかがでしょうか。

新御守「断つ守（たつもり）」

悪癖・悪病・悪縁を断ち、良い気を取り入れ、龍の如く運気が上昇するよう祈願した御守です。カード型のためお財布などに入れお持ちいただけます。

■初穂料　一、五〇〇円

月次祭～一日参り～

毎月一日、月の初めの氏神（うじがみ）さまへのお参りとして月次祭（つきなみさい）を行っております。皇室・国家の安寧と弥栄、氏子崇敬者の皆様の家内安全や健康を氏神さまにお祈りいたします。一般の方もご予約なしでご参列いただけます。また神事の後には神職による講話もございます。各月一日午前七時までに本殿へお集まりください。

奥津城（おくつき）（合葬墓）

昨年お知らせしました奥津城（合葬墓）を北斗霊園（鶴居村字温根内二）に建立いたしました。奥津城とは神道式のお墓のことです。合葬墓ですが個々人専用のスペースを確保し納骨いたします。神道式合葬墓についてお考えの方は社務所までご相談ください。